

5月にイベントを3つ計画しましたが、とても慌ただしく十分な対応ができないのではないかと不安でした。しかし、龍 JIN メンバーや関係各位のご協力により心寄り添う活動ができたのではないかと皆様の感想からうかがうことができ、まずはほっとしました。以下に活動状況を報告いたします。

荻浜での1泊2日牡蠣種付ボランティア活動

5月12日(土)～13日(日)1泊2日で石巻市荻浜にダークさんを含め16名、3台の車に便乗し「わかめの選別や牡蠣養殖の準備作業のお手伝い」に行ってきました。

実は、3月に海の幸応援ファンドPRビデオ撮りに荻浜を訪れた時に、豊嶋区長さんから「牡蠣の種付作業の5月に泊りがけで来てもらい、夜の交流会もできたらとても助かるしありがたい。私の家は津波にやられたがなんとか寝袋で泊まれるので使って欲しい」と話してくれました。この提案に基づいて計画し実現したものです。

事前にどんな服装が良いかを問い合わせた時に「作業などなくていいから我々の話を聞いて欲しいんだ」と話された時には言葉に詰まってしまいました。

当日は2日共風が強く船が出なかったため、予定が変わり一日目はわかめの選別作業、次の日は牡蠣養殖用の綱づくり作業を手伝いましたが、仕事の邪魔になっているのではないかと思いますながらも笑顔で仕事ことができました。



ゆでた「わかめ」の選別作業——茎と葉を切り分けた後、葉の不良部を除去する作業

夜の部のノミネーションは充実していました。今回は趣旨に賛同して多くの皆様からたくさんのお心遣いの品々をいただき持参しました。

小室さんの那須烏山市の地酒「東力士」や落合さんの久米仙43度焼酎、宇都宮市峰町小野さん提供の那珂川町白相酒造製ふくろう米焼酎、麒麟ビール営業芳賀さん提供のノンアルコールビール缶、三箇佐藤さん提供の米 30Kg などですがどれも大好評でした。

ほぼ全員参加の息子さん世代



↑ノンアルコールビール



充実の交流会の様子



ふくろう米焼酎↑



泊浜平塚夫妻も駆けつけてくれる中、海の幸応援ファンドPRや子どもたちの活躍ビデオを上映しました



← びつたりの礼服に「若返って頑張るぞ！」
荻浜仮設住宅の伏見さん



炊き出し裏方役の様子

ガールスカウトの子どもたちが作ったてるてる坊主や、今回同行された齋藤アヤ子さん制作のナイロンタワシなどの嬉しいプレゼントも場を盛り上げてくれました。また、市内の河原さんから「誰か使ってくれる人がいたら渡してください」と提供された礼服2着も持参しました。礼服は体形ぴつたりの伏見さんが「これを着てもう一度若返るぞ」と大喜びしてくれました。

また、3月17日龍 JIN 主催の震災1年を考える集いの時に集まったTシャツなどもお渡ししました。ガールスカウト提供のたくさんの寝袋も助かりました。

炊き出しは安田さんのプロ級の準備及び実践に加え、糸井さんはじめ梨ガールの皆さんの手際良さで質・量共充実した内容になりました。

3月に収録した海の幸応援ファンドPRビデオや龍 JIN 主催の一年を考える集いのビデオなどを観ながらの交流会は、写真の通りとても楽しく時間の経つのを忘れるほどでした。浜の皆さんは、息子さん世代も含めてほぼ全員が参加してくれたことも嬉しかったです。

次の日の作業は種付された牡蠣を海水に沈める綱を一定の長さに切りそろえて完成させる仕事でしたが、綱の役割や作業について丁寧に教えてもらい楽しくお手伝いしました。

「いつも1人なのでやんってしまう仕事が進んで助かった」との言葉が心に残りました。



伏見さんや阿部さんに教えてもらいながらのお手伝いの様子



「海の復興は荻浜から！」

勿論応援しますよ！
荻浜出発前に記念写真

帰りは鮎川の仮設店舗に立ち寄り昼食と買い物をした後、泊浜に足を伸ばし松川区長さんや平塚さんにも会って皆さんからの心遣いの品々をお渡ししました。

谷川浜、女川原発地区、女川漁港、石巻市門脇地区と回っての帰路に1時間以上の遅れではありましたが、快い疲れのまま帰ってくることができました。

谷川浜や石巻市門脇地区等多くの地区で、今なお昨年3.11のままの情景に改めて心が痛みました。

そして、またしても帰り際に荻浜の皆さん、鮎川の古市さん、泊浜平塚さんから恐縮するほどの海の幸をいただけてしまいました。今回も感動の場面の連続でした。

ひとつひとつが私たち龍 JIN メンバーの宝物になった1泊2日の活動でした。



泊浜の平塚さんから震災状況を説明されました。「今も浜には行きたくないんです」



160名の集落だった石巻市谷川浜地区、壊滅のままの光景、右は廃校になった谷川小



9カ月振りの女川町中心地はほとんど瓦礫がたづいていて更地が広がっている光景でした



女川町の仮設市場で買い物をしました
栃木県芳賀町の支援に感謝されました



鯉のぼりが泳ぐ石巻市門脇地区
被害者慰霊の灯火の前で合掌



龍JINメンバー齋藤さんの住む郡山市富田町若宮前仮設住宅

昨年まで那須烏山市に避難していた福島県富岡町の齋藤さんが原発避難者の高速無料特典を活用して欲しいと今回夫妻で参加してくれました。現在は郡山市にある富岡町仮設住宅に住んでおられ行き帰り立ち寄りしました。富岡町、双葉町、川内村の3町村の1,500名が住む仮設村でした。

地元那須烏山市岩子仮設住宅入居一周年のつどい

5月20日(日)、龍 JIN が一生懸命応援している市内岩子仮設住宅の「入居1周年のつどい」が実施されました。“入居開始から1周年を迎え退居される方も増えてきたが、さらなる復興に向けて決意を新たにすると共に関係各位に感謝するつどいを実施したい”という曽根原会長の思いを龍 JIN として全面的にバックアップしました。



曽根原会長から1年の思いの挨拶でスタート



恒例の谷田龍心君決意表明



「翼をください」を熱唱する鈴木荒川小校長

炊き出しを全面的に協力したいというボランティア団体「小山 YAMBE」や「栃木照る照る坊主の会」などの応援をいただきながら、会場設営や式典準備、全体コーディネートなどの裏方業務を行いました。

何の働きかけもしないと、炊き出しを実施しても参加しない方が半数近く出てしまい、炊き出し部隊の自己満足になってしまうことが多いのです。龍 JIN としては、今まで築いてきた仮設の皆様との人間関係を生かし、仮設の皆さん一軒一軒に声をかけ参加を促したり炊き出し品等を運ぶなど、龍 JIN ならではの活動をしようとメンバーで話し合いました。

仮設の方から「声かけしていただいたお陰でほぼ全員が参加しています。ありがとうございました」と話された時はとても嬉しかったです。

♪最後は「故郷」を輪になって合唱♪



栃木照る照る坊主の会協力による南三陸町
の海産物をふんだんに使ったラーメン屋さんも



今回も応援に駆け付けてくれた岡倉さんはじめオリオリゴスペルのメンバーによる歌のプレゼント

メニュー豊富な炊き出しに加え、仮設住宅の支援者がたくさん集まり100人を超える参加者で大いに盛り上がっていました。歌手の岡倉ゆかりさんも応援に駆けつけてくれて定番の「故郷」を手と手をつなぎ輪になって歌いました。夜7時からは高德花火店さんのご好意による花火大会のプレゼントで締めくくるといふ豪華な「入居1周年のつどい」でした。

曽根原会長さんはじめ住宅の皆様から「ここまでこられたのは龍 JIN のお陰です」とお礼を言われた時は、「こんな素晴らしい人達を応援している龍 JIN はなんて幸せなんだろう」と思いました。裏方役としてご協力いただいた龍 JIN メンバーの皆様、ご苦労様でした。



ボランティア団体一同で片付け終了時の記念写真



夜7時から夜空を彩った高徳花火さんご厚意による花火大会

バスボラ第6弾宮城県七ヶ浜町農地復活大作戦

5月26日(土)バス2台を仕立てて、烏山高34名(教諭2名、1年12、2年7、3年13)を含め53名で宮城県七ヶ浜町が取り組みだした農地復活大作戦のお手伝いに行ってきました。

震災から1年以上経過しても、被災した田んぼは大きな瓦礫は取り除かれてはいるものの、見る度に暗い気持ちになる状態でした。

七ヶ浜町では農家の人達がなんとしても田んぼを復活させたいと立ち上がり、町を上げて農地復活大作戦と銘打って取り組みだし、ボランティアを募集していると聞き早速計画して実現したものです。

今回も地元烏山高校に参加を呼びかけました。担当の先生があまりの希望者の多さにびっくりして、私に何度も相談の電話があったほどの嬉しい募集状況にバスを急遽増やしました。昨年の烏山高の取り組みが着実に成果に結び付き生徒たちの成長に貢献しているなと思いました。

一方でネット上からの募集状況は昨年の2割～3割と激減しているのです。昨年はネット公開と同時に満員となり即座に閉める状態でしたが最後まで満員になることはありませんでした。如何にボランティア意識が低下しているかというより今なおボランティア活動が必要であることの認識がないことが問題なのだと感じました。

今回の参加に関して窓口である七ヶ浜町ボランティアセンター(VC)に何度もお願いしたことがあります。それは農地復活大作戦に込める農家の人達の希望・夢を彼らの言葉で参加者に訴えて欲しいということです。依頼者からの言葉は参加者、特に高校生には深く胸に残る言葉となり、感想文の中身が全く異なることが昨年の活動でわかっています。VCでは全体ミーティングの時に、農家の代表者と役場の職員が説明するプログラムを組んでくれました。当日、天気も上々朝3:30分に出発しましたが、前日の雨の影響で当初予定した田んぼの仕事は中止となり海岸清掃に変更になりました。



農地復活大作戦取組の背景を説明する町職員と農家の代表

しかし、農家の代表の方からの説明はありました。「ガラスが残っていては田んぼではないので何度も細かい瓦礫を拾い、その後土を入れ替え最初は大豆を植えることで土壌を改善させ、5年以上かかると思うがなんとしても田んぼを復活させたいのでご協力をお願いしたい」と言葉に詰まりながらも話されました。昨年同時期よりもたくさん集まった300人以上のボランティアの皆さんはシーンとして聞いていました。



被災地で唯一海水浴場としてオープン予定の七ヶ浜町葛蒲田浜海岸の清掃

当日の海岸清掃については、今年夏、被災3県の中でたった一箇所海水浴場としてオープンする計画で、元気な姿を全国に発信したいので是非協力して欲しいと説明されました。

何度となく海岸清掃をしていることは打ち上げられたゴミは多かったもののガラス破片等危険なものがほとんどなかったことでもわかり、七ヶ浜町の皆様の夢実現の意気込みを感じました。高校生たちは今年も一生懸命作業に取り組んでくれました。瓦礫片付けでなく復興をPRする海水浴場づくりのお手伝いをしているのだと思いながら活動していたと思います。

流石にたくさんのボランティアの威力です。またたくまに海岸は綺麗になりました。参加者の感想は高校生を含めとても好評で、次も参加したいという声がほとんどでした。

9か月振りに訪れた七ヶ浜町の海岸付近はとても綺麗になっており、震災の爪痕を感じないのにはじめて参加した高校生の感想は「被災した現場を見て本当にショックでした」と書いており、改めて当たり前の光景がどんなものだったのかを考え被災の大きさ・深さを感じました。



昼食は参加者同士の貴重な交流の時間です



バス内長靴厳禁にして心もきれいに

4月から高速代有料化に伴い交通渋滞が全くなく予定時間がどんどん前倒しになりました。次回は1時間程度出発を遅らせても問題なく思いがけないプレゼントをもらった気持ちでした。帰りのバスの中では恒例の感想発表を行いました、高校生も一般の人も前向きな感想を話されました。久しぶりの瓦礫片付けのみのバスボランティアでしたが、充実した気持ちで帰ってくることができました。皆様、ご苦労さまでした。

恒例の参加者53名の集合写真

